



合併前後の和島地域内のコミュニティ活動状況

- ・ NPO 法人による各種活動 (H21よりエリア拡大・美術館ゾーンも含む)
農産物直売 特産品の販売 各種講座の開設 伝統芸能の発表 支所間交流
- ・ 越後鉄道の歴史を考え、住雲園を守る会結成 (H16) 保存活動 H20 盆踊り復活
- ・ ふるさとわしままつりの見直し (日程・会場・内容の見直し、実行委員会の見直し)
H18 会場変更 (野球場 道の駅) 内容変更 和島地域の特色ある事業 竹灯籠
H20 日程見直し (7月下旬+8月六夜祭り 8月中旬にまとめる)
- ・ 和島地域親善運動会の見直し
H18 内容変更 一日 半日 H22 会場変更 (運動広場 和島小学校)
- ・ 島崎地区まちづくり協議会設立 (H19) 住民によるはちすば通りの景観整備
H18 市制100周年記念事業きっかけ H18 良寛朗読ライブ~
H18よりワークショップ
- ・ 村岡城跡の歴史を守る会結成 (H21) とっておきの長岡まちめぐりから発展
- ・ 花いっぱい活動の拡がり (農地・水・環境保全活動関連他)
- ・ 菜の花プロジェクトの立ち上げ (H21) 和島・寺泊連携
- ・ ボランティアガイドの養成 (H21・H23)
- ・ 自主防災会の結成

なぜ今地域コミュニティなのか？

自助・共助・公助
自主・自立・自由

「日常生活のふれあいや共同の活動、共通の経験を通して生み出されるお互いの連帯感や
共同意識と信頼関係を築きながら、自分たちが住んでいる地域をみんなの力で自主的に住
みよくしていく活動が必要となってきた」

- ・ 少子高齢化、過疎化 行政の手が回らない、手が回せない分野での助け合いの
 仕組み必要
- ・ 合併による行政エリアの広域化 行政依存の体質からの脱却 自立の精神が必要

従来、公共や公を担うほとんどの事業は行政が実施してきた。しかし、行政だけではで
きないこともたくさん出てきている。

行政には、公平・平等の原則がある。税金で行うことから、公平であり特定の人や年代
だけに利益がある事業には制約が多くある。

一方、自治会や市民団体、サークルでは、自分たちの会費で好きなことをやれる。

コミュニティ活動により支援が必要と見込まれる分野・項目（新規需要）

- ・ 地域内交通弱者支援
- ・ 交通安全活動、児童見守り活動（ex.セーフティリーダー）
- ・ 高齢者見守り活動・支援活動（ex.除排雪支援）
- ・ 環境美化活動（クリーンアップ作戦・花いっぱい）
- ・ 時間外児童預かり、児童見守り活動

行政とのすみ分けが必要な分野・項目（地域固有的行事）

- ・ 地域内祭り
- ・ 地域内運動会、レクレーション
- ・ 地域スポーツ事業・競技種目別スポーツ大会
- ・ 各種サークル活動
- ・ 各種発表会
- ・ 子育て支援事業
- ・ 社会福祉協議会事業（ex.配食サービス）
- ・ 敬老会
- ・ 自主防災活動

行政受託事業

- ・ 図書館事業
- ・ 公民館事業
- ・ 児童クラブ

自主事業